

薬用植物園だより

2024年

7月

去痰・催吐・アメーバー赤痢に！「赤毛のアン」にも登場！ トコン (アカネ科)



Cephaelis ipecacuanha A. Richard

部位	根および根茎
生薬名	吐根 (トコン) 局方収載
成分	エメチン、セファエリン (モノテルペノイドイソキノリンアルカロイド)
薬理 用途	去痰作用、催吐作用、抗赤痢アメーバー原虫 アヘン・トコン散 (鎮咳, 下痢止め薬) 原料

ブラジル、アマゾン川流域の密林地帯に分布する常緑の矮性小低木。木質の走茎を出して成長します。病院では、催吐薬として子供のタバコなどの誤飲に対してトコンシロップ (局方収載) が常備されていましたが、最近では使用されなくなっているようです。一方、少量で去痰作用があり、浅田飴などにも配合されています。また、「赤毛のアン」に登場し、アンは子供の痰が詰まらないように「イピカック Ipecac」を使用します。これは、学名の *ipecacuanha* からわかるようにトコンです。留学していた時に、米国のメイン州を訪れたのですが、ビザの関係でプリンスエドワード島を訪れることが出来なかった思い出がよみがえります。さらに、この生薬は、アメーバー赤痢の特効薬として利用されました。現在もデヒドロエメチンなどの治療薬があります。

カワミドリ (シソ科)

アジアには本種のみ！国内にも自生しています！！

Agastache rugosa (Fisch. et C.A.Mey.) Kuntze

部位	地上部
生薬名	土藿香 (ドカッコウ)、川藿香 (センカッコウ)
成分	エストラゴール (フェニルプロパノイド、精油)
薬理	解熱作用、健胃作用
用途	生薬の藿香 (シソ科のパチヨリ <i>Pogostemon cablin</i>) の代用とされたが、現在は使用しない



22種の *Agastache* 属植物が知られ、そのほとんどが北米原産の多年草で、アニスヒソップなどは西洋ハーブとして有名です。しかし、唯一カワミドリだけが東アジアに分布しています。日本にも九州から北海道に自生しており、葉などには清涼感のある独特な香りがあります。また、インド原産の多年草であるパチヨリ *Pogostemon cablin* (Blanco) Benth. に由来する生薬・藿香、広藿香 (局方収載) の代用品とされましたが、現在の市場品には存在しません。藿香は、夏季に冷たいものを食べ過ぎて、胃腸の調子を崩したときの回復などに用いられる重要な生薬です。藿香とは精油成分が異なりますが、本植物も同様の効果が期待できると思われます。



ホームページでも
ご覧いただけます